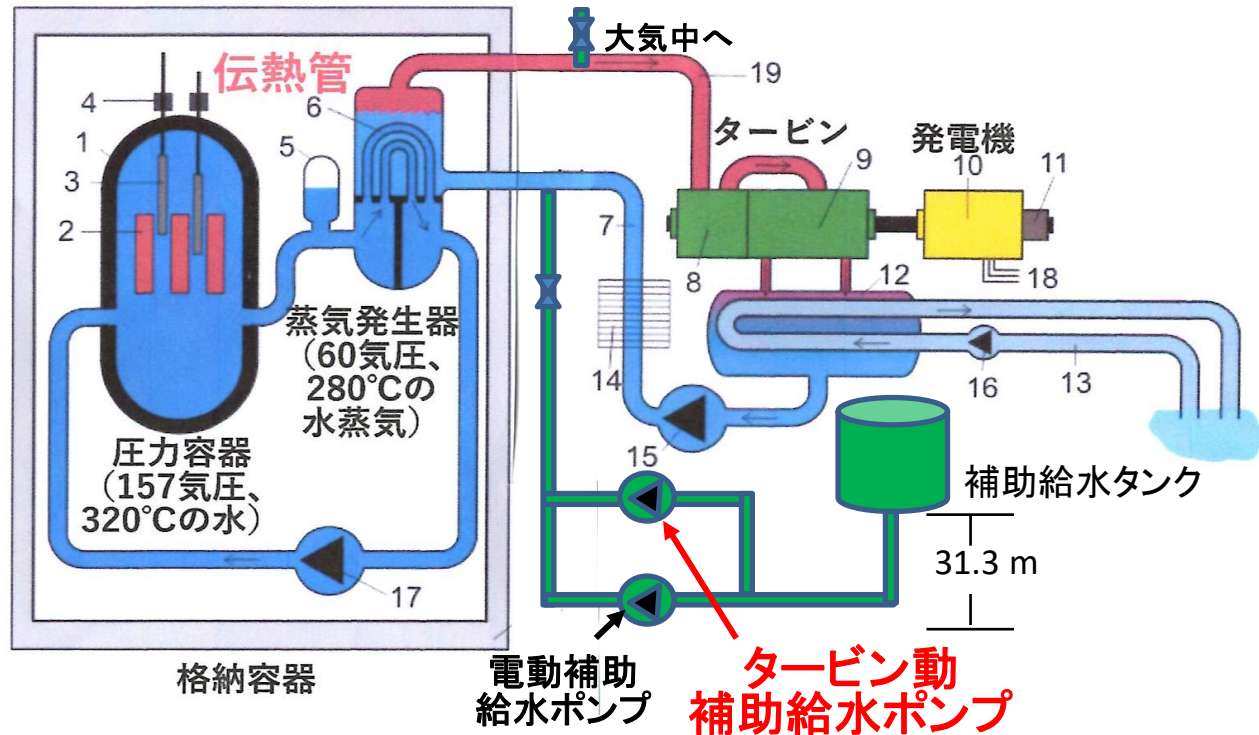


6月23日再稼働した美浜3号機で早速トラブル

7月2日、6月23日に再稼働した美浜3号機では、電源が断たれて蒸気発生器中の2次冷却水が喪失したとき、蒸気発生器に給水するポンプ(タービン動補助給水ポンプ)に大きな圧力がかかるトラブルが発生しています。関電は、「ポンプ入り口にある金属製のフィルターに鉄さびが詰まったことが原因」としています。これが事実であれば、配管中には多量の鉄さびが懸濁していることになり、この懸濁物が、配管の減肉やフィルターの目詰まりの原因になり、今後もトラブルを引き起こしかねないこととなります。

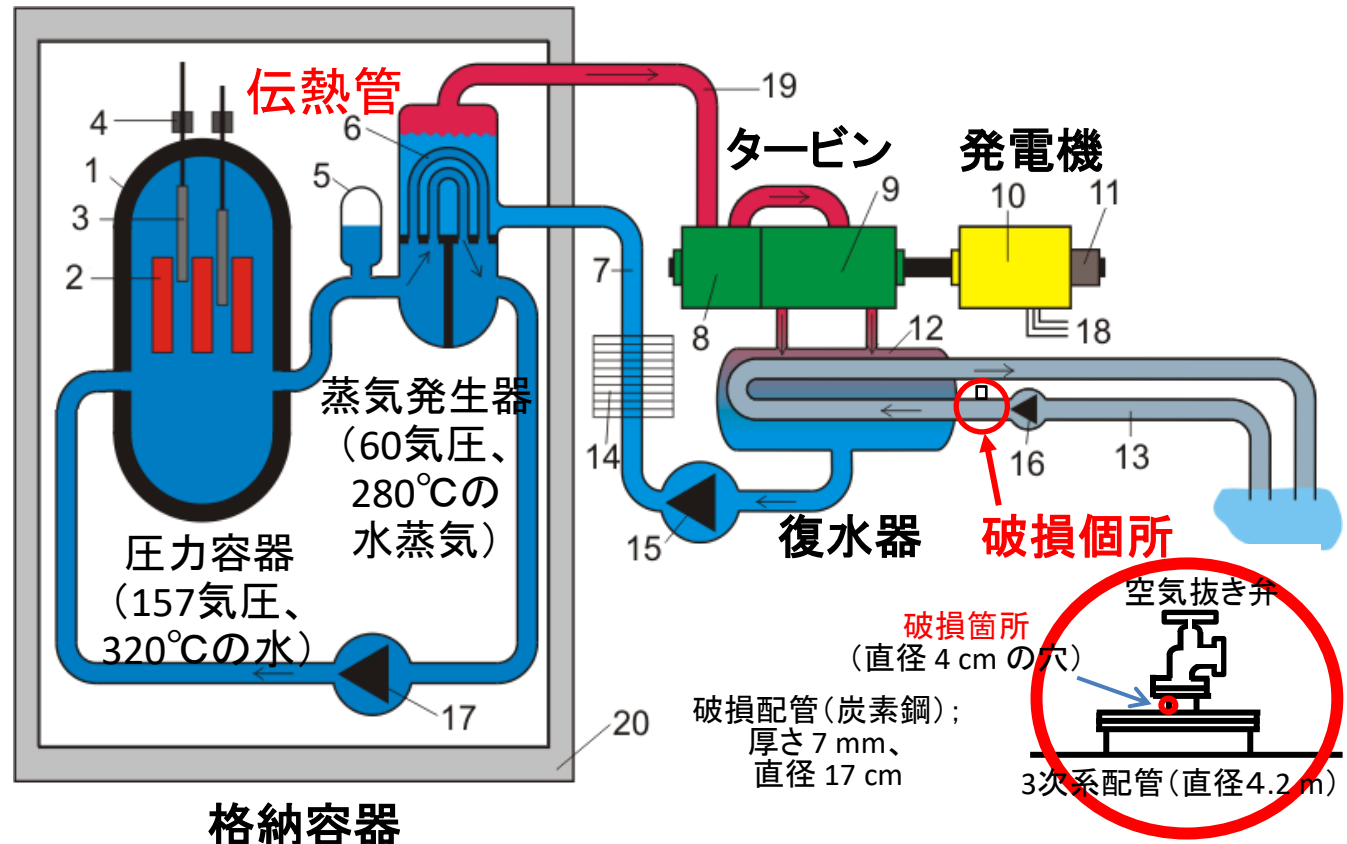
何よりも、老朽原発を全国に先駆けて動かそうとして準備してきたにも拘らず、**鉄さびによる目詰まりにも気づかなかった関電と規制委のいい加減さを糾弾しなければなりません。**



7月3日再稼働した大飯3号機でも早速トラブル

7月3日に再稼働し、7月30日に本格運転に入ったばかりの大飯3号機では、8月4日、タービンを回した蒸気を冷やすために海水を復水器に送る配管から水が漏れているのが見つかった。2系統ある配管の1系統の空気抜き弁枝管の付け根付近で漏水していた。漏れた海水は約20トン。この配管が大きく破損すれば、十分に原子炉を冷やせなく恐れがある。

それでも関電は、原子炉を停止せず、この系統のポンプを止め、出力を65%に下げて運転を続けている。安全軽視としか言いようがない。



格納容器